



# 「施設経営にあたって」

白鷹福祉会事務局長 別府 精宏

社会福祉法人白鷹福祉会が設立（S54・6）され早くも18年目を迎えようとしております。福祉会は、理事会（理事12名・理事長多田久男・他に監事2名）を中心に法人の運営に当たり、今、特別養護老人ホーム白光園（定員80名）、白光園デイ・サービスセンター（20名）、短期入所事業（20名）と更に精神薄弱者更生施設白鷹陽光学園（定員80名）の経営に当たっております。

一法人三施設の経営は、老人施設も知的障害施設も地域に根ざした福祉の拠点施設として位置づけ、その使命と役割を担い地域住民の福祉の充実向上に役職員一丸となって鋭意努力しております。

施設経営の主体は法人でありますから法人役員、施設の幹部職員は責任の重大さを認識し運営の安定と利用者（入所者）への適切なサービス提供に努め生きがいある施設生活を営んでいただけるよう配慮いたしております。

「老いたる者は智恵があり、命の長き者には悟りがある」とある識者が申されました。

今、白光園を利用しておられる方々の平均年齢は80才を越えておられます。長年社会の進展に寄与された智恵者であります。この認識のもとに人権の尊重を旨とし、利用者本位の処遇に努めております。

社会情勢や経済社会の変貌により家庭・家族の生活も大きく変わって参りました。老人福祉をとりまく状況も時代の流れと共に老人医療制度から年金制度、そして施設福祉へと進展し、ここ数年在宅福祉の問題が大きくクローズアップされてまいりました。

高齢社会と少子化の中で、施設が果すべき役割もますます重視され、また責任の重大さを更に痛感いたしております。この様な中で施設は利用されている方々の生活の場、家庭であり、利用者も職員も家族であるとの認識のもとに毎日の生活も共に楽しく、生きがいの感じる暮らしを送っていただけるように努めております。

長寿社会が更に伸びる状況下で、社会構造や家庭（家族）環境の変化、進展により更に複雑・



多岐に亘るものと予想され、伴って、介護問題も一人の課題として解決出来ない時代に入ったのではないのでしょうか。介護問題が大きな社会問題としてとりあげられ、今、介護保険が論議され、新介護システムをどうするかなど全国的に話題が展開している状況下にあります。

私も施設・職員も地域の実態を充分把握し、社会情勢の推移を的確にとらえながら、求めて喜ばれる施設運営とサービスの向上に努めながら町がかかっている「健康と福祉の里」づくりに向けて白鷹福祉会もその一端を担って参りたいと思っております。

# 入所者の声



## 私の喜び

赤間 いの

「変わりなえが？」

聞き覚えのある声に目を開けると、孫が覗いていました。少し時間が出来たので、様子を見に来たとのこと。

四歳になるまで、私が抱いて寝ていた孫は今年三十三歳、二人の子持ちになりました。その孫が、寸暇を惜しんで面会に来てくれるような、おもしろい子に育ってくれたことが、とても嬉しく、私の喜びになっています。

「おばんちゃ、げんき？」

かわいい声に目を向けると、曾孫が二人、孫の後ろから顔を出して笑っています。言いようのない幸せな気分を味わいながら、私は孫の手助けを受けて起き上りました。



## 自分のペースで

高橋 良二

私は、十五年の闘病生活を経て白光園に来ました。心臓が苦しくなるという持病があるので無理は出来ませんが、三日に一度の洗濯やシーツ交換など、身の廻りのことは出来るだけ自分でやろうと思いい、体調が良い限り続けています。また、他の入所者が楽しみに待っていてくれることもあって、ゴミを捨ててあげたり、新聞を持って行ってあげたり、仲良くおつきあいをしています。

週二、三度行われるクラブ活動は、「頭の体操」と考えて参加し、大勢の方と触れ合い、ワイワイ、ガヤガヤ賑やかに頑張っています。

午後三時から、時代劇が好きな仲間が集まって、テレビ観賞です。暴れん坊将軍や黄門様になりきって、真剣に見ています。

毎朝五時半には起き、外が暗くなると寝るのが体調を維持する私の秘訣なので、これからのこのペースを守りたいと思っています。

## 百聞は一見に如かず

蒲澤 章夫

私は、教育職を定年退職し悠々自適の生活を送っていましたが、脚立に登って庭木の手入れ中、気を失って倒れ、病院で頸椎損傷と診断されて闘病生活。家族の献身的な看病を受け、自らも再起を願ってリハビリに励み五ヶ月後退院できました。その喜びも束の間、以前より病弱であった妻が過労も重なって他界し、男二人の生活になったことや、息子の今後のことを考えて、短期保護事業の入所申請に至ったのであります。

老人ホームは未知の世界。不安を抱えての入所でしたが、まさに「百聞は一見に如かず」で、中に入ると入所者全体が和気あいあいとしており、給食は旨く献立も立派であり、何と云っても寮母さん方が明らかで明るいという印象を受け、安堵の中で長期入所申請の腹を決めたのであります。

現在の私は、車椅子から歩行器歩行を目指して積極的にリハビリに頑張っております。

